

NPO法人NOT
定款

第1章 総則

(名称)

第1条 この法人はNPO法人NOTという。

(事務所)

第2条 この法人は、主たる事務所を東京都渋谷区に置く。

2 この法人は、従たる事務所を東京都町田市に置く。

(目的)

第3条 この法人は、広く一般市民に対して、以下の活動を通じて「自分以外と未来世代のために行動することが当たり前になる社会」の実現に寄与することを目的とする。

- (1) 見過ごされがちな社会課題や構造的問題を可視化し、発信すること
- (2) 新しい価値観に基づいたライフスタイルや働き方の実践および社会的な実験・検証の場を提供すること
- (3) 組織の立ち上げや運営に関する支援を行うこと

(特定非営利活動の種類)

第4条 この法人は前条の目的を達成するため、次の種類の特定非営利活動を行う。

- (1) 子どもの健全育成を図る活動
- (2) 社会教育の推進を図る活動
- (3) 学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動
- (4) 男女共同参画社会の形成の促進を図る活動
- (5) まちづくりの推進を図る活動
- (6) 情報化社会の発展を図る活動
- (7) 経済活動の活性化を図る活動
- (8) 職業能力の開発又は雇用機会の拡充を支援する活動
- (9) 農山漁村又は中山間地域の振興を図る活動
- (10) 前各号に掲げる活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動

(事業の種類)

第5条 この法人は、第3条の目的を達成するため、特定非営利活動に係る事業として、次の事業を行う。

- (1) 見過ごされがちな社会課題や社会構造を可視化し、新しい生き方や価値観を探るための情報発信に関する事業
- (2) 新しい価値観に基づいたライフスタイルや働き方の実践および社会的な実験・検証の場を提供する事業
- (3) 組織の立ち上げや転機を迎える個人・団体に対して、場づくり支援を行う事業
- (4) 外部団体が実施する研修会・ワークショップ等への講師派遣に関する事業
- (5) 子どもの自治力や異年齢での関係性を育む子ども会活動に関する事業
- (6) その他目的を達成するために必要な事業

2 この法人は、次のその他の事業を行う。

- (1) デザイン制作事業
- (2) 物品販売事業
- (3) 保険代理店事業

3 前項に掲げる事業は、第1項に掲げる事業に支障がない限り行うものとし、その収益は第1項に掲げる事業にあてるものとする。

第2章 会員

(種別)

第6条 この法人の会員は、次の3種とし、正会員をもって特定非営利活動促進法（以下「法」という）上の社員とする。

- (1) 正会員 この法人の目的に賛同して入会した個人及び団体。
- (2) 賛助会員 この法人の目的に賛同し、経済的な支援を通してこの法人の事業に参画する個人及び団体。
- (3) ネットワーク会員 理事会において別に定めるネットワーク会費を納める個人。

(入会)

第7条 会員の入会について、特に条件は定めない。

- 2 正会員として入会しようとするものは、代表理事が別に定める入会申込書により、代表理事に申し込むものとする。
- 3 代表理事は、前項の申し込みがあったとき、正当な理由がない限り、入会を認めなければならない。
- 4 代表理事は、第2項のものの入会を認めないときは、速やかに、理由を付した書面をもって本人にその旨を通知しなければならない。
- 5 賛助会員は、随時賛助会費の納入をもって入会することができる。
- 6 ネットワーク会員は、随時ネットワーク会費の納入をもって入会することができる。

(会費)

第8条 会員は、理事会において別に定める会費を納入しなければならない。

(会員の資格の喪失)

第9条 会員が次の各号の一に該当する場合には、その資格を喪失する。

- (1) 退会届の提出をしたとき。
- (2) 本人が死亡し、若しくは失そう宣告を受け、又は会員である団体が消滅したとき。
- (3) 継続して2年以上会費を滞納したとき。
- (4) 除名されたとき。

(退会)

第10条 会員は、代表理事が別に定める退会届を代表理事に提出して、任意に退会することができる。

(除名)

第11条 会員が次の各号の一に該当する場合には、総会の議決により、これを除名することができる。

- (1) この定款に違反したとき。
- (2) この法人の名誉を傷つけ、又は目的に反する行為をしたとき。

2 前項の規定により会員を除名しようする場合は、議決の前に当該会員に弁明の機会を与えなければならない。

(拠出金品の不返還)

第12条 既に納入した会費その他の拠出金品は、返還しない。

第3章 役員

(種別及び定数)

第13条 この法人に次の役員を置く。

- (1) 理事 3人以上4人以内。
- (2) 監事 1人以上2人以内。

2 理事のうち1人を代表理事とする。

(選任等)

第14条 理事及び監事は、総会において選任する。

2 代表理事は、理事の互選とする。

3 役員のうちには、それぞれの役員について、その配偶者若しくは三親等以内の親族が1人を超えて含まれ、又は当該役員並びにその配偶者及び三親等以内の親族が役員の総数の3分の1を超えて含まれることになってはならない。

4 法第20条各号のいずれかに該当する者は、この法人の役員になることができない。

5 監事は、理事又はこの法人の職員を兼ねてはならない。

(職務)

第15条 代表理事は、この法人を代表し、その業務を総理する。

2 代表理事に事故あるとき又は代表理事が欠けたときは、代表理事があらかじめ指名した順序によって、理事がその職務を代行する。

3 理事は、理事会を構成し、この定款の定め及び総会または理事会の議決に基づき、この法人の業務を執行する。

4 監事は、次に掲げる職務を行う。

- (1) 理事の業務執行の状況を監査すること。
- (2) この法人の財産の状況を監査すること。
- (3) 前2号の規定による監査の結果、この法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実があることを発見した場合には、これを総会又は所轄庁に報告すること。
- (4) 前号の報告をするために必要がある場合には、総会を招集すること。
- (5) 理事の業務執行の状況又はこの法人の財産の状況について、理事に意見を述べること。

(任期等)

第16条 役員の任期は2年とする。ただし再任を妨げない。

2 補欠のため、又は増員により就任した役員の任期は、それぞれの前任者又は現任者の任期の残存期間とする。

3 役員は、辞任又は任期満了後においても、後任者が就任するまでは、その職務を行わなければならない。

(欠員補充)

第17条 理事又は監事のうち、その定数の3分の1を超える者が欠けたときは、遅滞なくこれを補充しなければならない。

(解任)

第18条 役員が次の各号の一に該当する場合には、総会の議決により、これを解任することができる。

- (1) 心身の故障のため、職務の遂行に堪えられないと認められるとき。
- (2) 職務上の義務違反その他役員としてふさわしくない行為があったとき。

2 前項の規定により役員を解任しようとする場合は、議決の前に当該役員に弁明の機会を与えなければならない。

(報酬等)

第19条 役員は、その総数の3分の1以下の範囲内で報酬を受けることができる。

- 2 役員には、その職務を執行するために要した費用を弁償することができる。
- 3 前2項に関し必要な事項は、総会の議決を経て、代表理事が別に定める。

第4章 会議

(種別)

第20条 この法人の会議は、総会及び理事会の2種とする。

- 2 総会は、通常総会及び臨時総会とする。

(総会の構成)

第21条 総会は正会員をもって構成する。

(総会の権能)

第22条 総会は、以下の事項について議決する。

- (1) 定款の変更
- (2) 解散及び合併
- (3) 事業報告及び収支決算
- (4) 役員の選任又は解任、職務及び報酬
- (5) その他運営に関する重要事項

(総会の開催)

第23条 通常総会は毎年1回開催する。

- 2 臨時総会は、次に掲げる場合に開催する。
 - (1) 理事会が必要と認め、招集の請求をしたとき。
 - (2) 正会員総数の5分の1以上から会議の目的を記載した書面により招集の請求があったとき。
 - (3) 監事が第15条第4項第4号の規定に基づいて招集するとき。

(総会の招集)

第24条 総会は前条第2項第3号の場合を除いて、代表理事が招集する。

- 2 代表理事は、前条第2項第1号及び第2号の規定による請求があったときは、その日から10日以内に臨時総会を招集しなければならない。

3 総会を招集する場合には、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面又は電磁的方法により、開催の日の少なくとも5日前までに通知しなければならない。

(総会の議長)

第25条 総会の議長は、その総会に出席した正会員の中から選出する。

(総会の定足数)

第26条 総会は、正会員総数の2分の1以上の出席がなければ開会することができない。

(総会の議決)

第27条 総会における議決事項は、第23条第3項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。

2 総会の議事は、この定款に規定するもののほか、出席した正会員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(総会での表決権等)

第28条 正会員の表決権は平等なものとする。

2 やむを得ない理由により総会に出席できない正会員は、あらかじめ通知された事項について、書面若しくは電磁的方法をもって表決し、または他の正会員を代理人として表決を委任することができる。

3 前項の規定により表決した正会員は、前2条の規定の適用については出席したものとみなす。

4 総会の議決について、特別の利害関係を有する正会員は、その議事の議決に加わることができない。

(総会の議事録)

第29条 総会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

(1) 日時及び場所

(2) 正会員総数及び出席者数(書面若しくは電磁的方法による表決者又は表決委任者がある場合にあっては、その数を付記すること)

(3) 審議事項

(4) 議事の経過の概要及び議決の結果

(5) 議事録署名人の選任に関する事項

2 議事録には、議長及び総会において選任された議事録署名人2名が、記名押印又は署名しなければならない。

(理事会の構成)

第30条 理事会は、理事をもって構成する。

(理事会の権能)

第31条 理事会は、この定款に別に定める事項のほか、次の事項を議決する。

(1) 総会に付議すべき事項

(2) 総会の議決した事項の執行に関する事項

(3) 経営会議の組織及び運営

(4) その他総会の議決を要しない業務の執行に関する事項

(理事会の開催)

第32条 理事会は、次に掲げる場合に開催する。

- (1) 代表理事が必要と認めたとき。
- (2) 理事総数の4分の1以上から理事会の目的である事項を記載した書面により招集の請求があったとき。

(理事会の招集)

第33条 理事会は代表理事が招集する。

2 代表理事は、前条第2号の場合にはその日から10日以内に理事会を招集しなくてはならない。

3 理事会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面により、開催の日の少なくとも3日前までに通知しなければならない。

(理事会の議長)

第34条 理事会の議長は、代表理事がこれにあたる。

(理事会の議決)

第35条 理事会における議決事項は、第33条第3項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。

2 理事会の議事は、理事の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(理事会での表決権等)

第36条 各理事の表決権は、平等なるものとする。

2 やむを得ない理由のため理事会に出席できない理事は、あらかじめ通知された事項について書面をもって表決することができる。

3 前項の規定により表決した理事は、前条及び次条第1項の適用については、理事会に出席したものとみなす。

4 理事会の議決について、特別の利害関係を有する理事は、その議事の議決に加わることができない。

(理事会の議事録)

第37条 理事会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- (1) 日時及び場所
- (2) 理事総数、出席者数及び出席者氏名（書面表決者にあつては、その旨を付記すること）
- (3) 審議事項
- (4) 議事の経過の概要及び議決の結果
- (5) 議事録署名人の選任に関する事項

2 議事録には、議長及び会議において選任された議事録署名人2名が、記名押印又は署名しなければならない。

第5章 資産

(構成)

第38条 この法人の資産は、次の各号に掲げるものをもって構成する。

- (1) 設立当初の財産目録に記載された資産
- (2) 会費
- (3) 寄付金品
- (4) 財産から生じる収入
- (5) 事業に伴う収入
- (6) その他の収入

(区分)

第39条 この法人の資産は、これを分けて特定非営利活動に係る事業に関する資産、その他の事業に関する資産の2種とする。

(管理)

第40条 この法人の資産は、代表理事が管理し、その方法は、理事会の議決を経て、代表理事が別に定める。

第6章 会計

(会計の原則)

第41条 この法人の会計は、法第27条各号に掲げる原則に従って行われなければならない。

(会計区分)

第42条 この法人の会計は、次のとおり区分する。

- (1) 特定非営利活動に係る事業会計
- (2) その他の事業会計

(事業年度)

第43条 この法人の事業年度は、毎年9月1日に始まり、翌年8月31日に終わる。

(事業計画及び予算)

第44条 この法人の事業計画及びこれに伴う収支予算は、毎事業年度ごとに代表理事が作成し、理事会の議決を経なければならない。

(暫定予算)

第45条 前条の規定にかかわらず、やむを得ない理由により予算が成立しないときは、代表理事は、理事会の議決を経て、予算成立の日まで前事業年度の予算に準じ収入支出することができる。

2 前項の収入支出は、新たに成立した予算の収入支出とみなす。

(予備費)

第46条 予算超過又は予算外の支出に充てるため、予算中に予備費を設けることができる。

2 予備費を使用するときは、理事会の議決を経なければならない。

(予算の追加及び更正)

第47条 予算成立後にやむを得ない事由が生じたときは、理事会の議決を経て、既定予算の追加又は更正をすることができる。

(事業報告及び決算)

第48条 この法人の事業報告書、財産目録、貸借対照表及び収支計算書等決算に関する書類は毎事業年度終了後、速やかに、代表理事が作成し、監事の監査を受け、総会の議決を経なければならない。

2 決算上剰余金を生じたときは、次事業年度に繰り越すものとする。

(臨機の措置)

第49条 予算をもって定めるもののほか、借入金の借入れその他新たな義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、理事会の議決を経なければならない。

第7章 定款の変更、解散及び合併

(定款の変更)

第50条 この法人が定款を変更しようとするときは、総会に出席した正会員の4分の3以上の多数による議決を経、かつ、法第25条第3項に規定する軽微な事項を除いて所轄庁の認証を得なければならない。

(解散)

第51条 この法人は、次に掲げる事由により解散する。

- (1) 総会の決議
- (2) 目的とする特定非営利活動に係る事業の成功の不能
- (3) 正会員の欠亡
- (4) 合併
- (5) 破産
- (6) 所轄庁による設立の認証の取消し

2 前項第1号の事由によりこの法人が解散するときは、正会員総数の4分の3以上の承諾を得なければならない。

3 第1項第2号の事由により解散するときは、所轄庁の認定を得なければならない。

(残余財産の帰属)

第52条 この法人が解散（合併又は破産による解散を除く）したときに残存する財産は、総会において出席した正会員の過半数をもって決した特定非営利活動法人又は公益法人もしくは国又は地方公共団体に譲渡するものとする。

(合併)

第53条 この法人が合併しようとするときは、総会において正会員総数の4分の3以上の議決を経、かつ、所轄庁の認証を得なければならない。

第8章 公告の方法

(公告の方法)

第54条 この法人の公告は、この法人の掲示場に掲示するとともに、官報に掲載して行う。ただし、法第28条の2第1項に規定する貸借対照表の公告については、内閣府NPO法人ポータルサイト（法人入力情報欄）に掲載して行う。

第9章 経営会議

(経営会議の設置)

第55条 この法人の運営を円滑に行うため、この法人に経営会議を設ける。

(経営委員の任免)

第56条 経営会議を構成する経営委員の任免は代表理事が行う。

(役割)

第57条 経営会議はこの法人の運営に関して相談を行い、理事会に意見を述べる。

(開催)

第58条 経営会議は特別な事情のない限り、毎月一回の例会を行う。

2 経営会議は必要に応じて臨時会を開くことができる。

(総会への出席)

第59条 経営委員は総会に出席し、意見を述べるができる。

第10章 雑則

(細則)

第60条 この定款の施行について必要な細則は、理事会の議決を経て、代表理事がこれを定める。

附則

1 この定款は、この法人の成立の日から施行する。

2 この法人の設立当初の役員は、次に掲げる者とする。

代表理事	長田 英史
理事	寺尾 恵子
	瀧本 剛
監事	前田 美千代

3 この法人の設立当初の役員の任期は、第16条第1項の規定にかかわらず、この法人の成立の日から2002年11月30日までとする。

4 この法人の設立当初の事業年度は、第43条の規定にかかわらず、この法人の設立の日から2002年8月31日までとする。

5 この法人の設立当初の事業計画及び収支予算は、第44条の規定にかかわらず、設立総会の定めるところによる。

6 この法人の設立当初の会費は、第8条の規定にかかわらず、次に掲げる額とする。

(1) 正会員 一ヶ月7000円 ただし、正会員が、正会員の会費を納入することが経済的な事情により困難な場合には、その理由が正当かつ相当なものであると認められる場合に限り、理事会の議決を経て納入金額を減額することができる。

(2) 賛助会員 一ヶ月2000円／一口

(3) ネットワーク会員 一ヶ月1000円

7 2003年5月16日一部変更

8 2003年11月12日一部変更

9 2006年2月1日一部変更

10 2007年7月1日一部変更

11 2011年3月24日一部変更

12 2014年5月1日一部変更

13 2015年12月1日一部変更

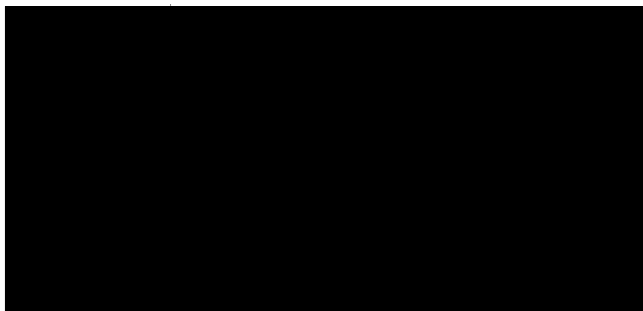
14 2018年6月6日一部変更

15 2018年9月17日一部変更

16 2019年4月11日一部変更

17 2022年6月10日一部変更

18 2025年 月 日一部変更



2025 年度

事業計画書

NPO法人NOT

1 事業実施の方針

2025年度は、2024年度に情報発信事業の拡散により共感を得、関係を築いた市民と、それ以外の事業で共に新しい生き方のプロトタイピングに取り組む場をつくるなど、NOTのメンバーと受益者が共に参加・取り組んでいける活動に展開していく。それと共に、継続寄付やメンバーシップの登録の受け皿を用意し共感した市民が活動を応援してくれる仕組みを構築する。さらに場づくり支援においては、受け身ではなく、自分が主催者、場をつくる側となるための考え方やノウハウを体系化し提供する。講師派遣事業は他事業との優先順位付けを行い、広く展開はせず依頼ベースで実施する。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

(事業費の総費用【 7,715 】千円)

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	受益対象者範囲	受益対象者人数	事業費(千円)
見過ごされがちな社会課題や社会構造を可視化し、新しい生き方や価値観を探るための情報発信に関する事業	Podcast 等を通じた情報発信	週日 6	法人事務所	10人	関心のある一般市民	2,500人	1,900
新しい価値観に基づいたライフスタイルや働き方の実践および社会的な実験・検証の場を提供する事業	暮らし方等の様々な実験・プロトタイピング	不定期	法人事務所など	10人	関心のある一般市民	40人	1440
組織の立ち上げや転機を迎える個人・団体に対して、場づくり支援を行う事業	場をつくる力をつくる支援	不定期	関東近辺	10人	関心のある一般市民	100人以上	755
外部団体が実施する研修会・ワークショップ等への講師派遣に関する事業	場づくり等の講座を行う団体への講師派遣	随時	発注元の指定する場所	3人	発注元が募集する一般市民	100人以上	3,500
子どもの自治力や異年齢での関係性を育む子ども会活動に関する事業	子どもの自治力・異年齢の関係性構築援助	月1回及び不定期	町田市小川小学校ほか	2人	町田地域の小学生～高校生	5人程度	120

(2) その他の事業

(事業費の総費用【 1 】千円)

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	事業費(千円)
デザイン制作事業	特定非営利活動以外のデザイン事業	随時	法人事務所	1人	0
物品販売事業	特定非営利活動以外の物販事業	随時	法人事務所	1人	0
保険代理店事業	自動車保険代理店	随時	法人事務所	1人	1

2026 年度

事業計画書

NPO法人NOT

1 事業実施の方針

2026年度は、2025年度に基盤を整備したNOTのメンバーと受益者が共に参加・取り組んでいける活動の拡充を拡充していく。継続寄付やメンバーシップの登録の受け皿の継続運営により、共感した市民が活動を応援してくれる形を継続・強化していく。講師派遣事業は他事業との優先順位付けを行い、広く展開はせず依頼ベースで実施する形を継続する。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

(事業費の総費用【 7,215 】千円)

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	受益対象者範囲	受益対象者人数	事業費(千円)
見過ごされがちな社会課題や社会構造を可視化し、新しい生き方や価値観を探るための情報発信に関する事業	Podcast 等を通じた情報発信	週日 6	法人事務所	10人	関心のある一般市民	2,500人	1,400
新しい価値観に基づいたライフスタイルや働き方の実践および社会的な実験・検証の場を提供する事業	暮らし方等の様々な実験・プロトタイピング	不定期	法人事務所など	10人	関心のある一般市民	40人	1440
組織の立ち上げや転機を迎える個人・団体に対して、場づくり支援を行う事業	場をつくる力をつくる支援	不定期	関東近辺	10人	関心のある一般市民	100人以上	755
外部団体が実施する研修会・ワークショップ等への講師派遣に関する事業	場づくり等の講座を行う団体への講師派遣	随時	発注元の指定する場所	3人	発注元が募集する一般市民	100人以上	3,500
子どもの自治力や異年齢での関係性を育む子ども会活動に関する事業	子どもの自治力・異年齢の関係性構築援助	月1回及び不定期	町田市小川小学校ほか	2人	町田地域の小学生～高校生	5人程度	120

(2) その他の事業

(事業費の総費用【 22 】千円)

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	事業費(千円)
デザイン制作事業	特定非営利活動以外のデザイン事業	随時	法人事務所	1人	1
物品販売事業	特定非営利活動以外での物販事業	随時	法人事務所	1人	20
保険代理店事業	自動車保険代理店	随時	法人事務所	1人	1

2025年度 活動予算書（その他事業がある場合）

NPO法人NOT

（単位：円）

科目		特定非営利活動に係る事業		その他事業		合計
		金額	小計・合計	金額	小計・合計	
【A】 経 常 収 益						
1	受取会費		7,260,000		0	7,260,000
	正会員受取会費	6,900,000				
	賛助会員受取会費	360,000				
2	受取寄附金		1,200,000		0	1,200,000
	受取寄附金	1,200,000				
	施設等受入評価益	0				
3	受取助成金等		500,000		0	500,000
	受取補助金	500,000				
4	事業収益		5,520,000		16,000	5,536,000
	児童・若者らによる社会貢献や社会啓蒙を可及とし、新しい食や生活様式を確立するための啓蒙活動に関する事業	800,000				
	新しい価値観に基づいたライフスタイルや働き方の実現および社会的な課題・課題の解決を図る事業	800,000				
	組織の立ち上げや組織を巡る個人・団体に対して、場づくり支援を行う事業	1,300,000				
	外部団体が実施する研修会・ワークショップ等への講師派遣に関する事業	2,500,000				
	子どもの自他力や異年齢での関係性を育む子ども会活動に関する事業	120,000				
	デザイン制作事業			0		
	物品販売事業			0		
	保険代理店事業			16,000		
5	その他の収益		10,000		0	10,000
	雑収入	10,000				
経 常 収 益 計			14,480,000		16,000	14,506,000
【B】 経 常 費 用						
1	事業費		2,040,000		0	2,040,000
	(1) 人件費					
	給料手当	2,040,000				
	役員報酬	0				
	退職給付費用	0				
	福利厚生費	0				
	(2) その他の経費		5,875,000		1,000	5,876,000
	会議費	100,000				
	旅費交通費	400,000				
	減価償却費	80,000				
	法定福利費	315,000				
	広告宣伝費	1,500,000				
	消耗品費	700,000				
	消耗備品費	630,000				
	賃借料	700,000				
	支払手数料	800,000				
	新聞図書費	200,000				
	支払保険料	50,000				
	雑費	200,000		1,000		
事業費計			7,715,000		1,000	7,716,000
2	管理費		0		0	0
	(1) 人件費					
	役員報酬	0				
	給料手当	0				
	退職給付費用	0				
	福利厚生費	0				
	(2) その他の経費		5,890,000		0	5,890,000
	消耗品費	120,000				
	水道光熱費	720,000				
	システム利用料	100,000				
	地代家賃	4,600,000				
	旅費交通費	50,000				
	支払手数料	300,000				
管理費計			5,890,000		0	5,890,000
経 常 費 用 計			13,605,000		1,000	13,606,000
当期経常増減額【A】-【B】・・・①			885,000		15,000	900,000
【C】 経 常 外 収 益						
	固定資産売却益	0		0		
	過年度損益修正益	0		0		
経 常 外 収 益 計			0		0	0
【D】 経 常 外 費 用						
	固定資産売却損	0		0		
	災害損失	0		0		
	過年度損益修正損	0		0		
経 常 外 費 用 計			0		0	0
当期経常外増減額【C】-【D】・・・②			0		0	0
繰越区分損当額・・・③			15,000		-15,000	
取引先直前正味財産増減額①+②+③・・・④			900,000		0	900,000
法人税、住民税及び事業税・・・⑤						70,000
前期繰越正味財産額・・・⑥						-19,285,952
次期繰越正味財産額④-⑤+⑥						-18,455,952

2026年度 活動予算書 (その他事業がある場合)

NPO法人NOT

(単位:円)

科目		特定非営利活動に係る事業		その他事業		合計
		金額	小計・合計	金額	小計・合計	
【A】 経 常 収 益						
1	受取会費 正会員受取会費 賛助会員受取会費	6,900,000 360,000	7,260,000		0	7,260,000
2	受取寄附金 受取寄附金 施設等受入評価益	1,350,000 0	1,350,000		0	1,350,000
3	受取助成金等 受取補助金	0	0		0	0
4	事業収益 鳥居ごらんがもくろしき会館や社会福祉を有財とし、新しい生き方や価値観を創出したのの習得等に資する事業 新しい価値観に基づいたライフスタイルや働き方の実践および社会的な貢献・発展の場を提供する事業 組織の立ち上げや組織を育てる個人・団体に対して、場づくり支援を行う事業 外部団体が実施する研修会・ワークショップ等への講師派遣に関する事業 子どもの自他力や異年齢での関係性を育む子ども会活動に関する事業 デザイン制作事業 物品販売事業 保険代理店事業	1,300,000 1,000,000 1,300,000 2,300,000 120,000	6,020,000		166,000 100,000 50,000 16,000	6,186,000
5	その他の収益 雑収入	10,000	10,000		0	10,000
経 常 収 益 計			14,640,000		166,000	14,806,000
【B】 経 常 費 用						
1	事業費 (1) 人件費 給料手当 役員報酬 退職給付費用 福利厚生費 (2) その他経費 会議費 旅費交通費 減価償却費 法定福利費 広告宣伝費 消耗品費 消耗備品費 賃借料 支払手数料 新聞図書費 支払保険料 雑費	2,040,000 0 0 0 0 100,000 400,000 80,000 315,000 1,000,000 700,000 630,000 700,000 800,000 200,000 50,000 200,000	2,040,000		0 22,000	2,040,000 5,197,000
事業費計			7,215,000		22,000	7,237,000
2	管理費 (1) 人件費 役員報酬 給料手当 退職給付費用 福利厚生費 (2) その他経費 消耗品費 水道光熱費 システム利用料 地代家賃 旅費交通費 支払手数料	0 0 0 0 0 120,000 720,000 100,000 4,600,000 50,000 300,000	0		0 0	0 5,890,000
管理費計			5,890,000		0	5,890,000
経 常 費 用 計			13,105,000		22,000	13,127,000
当 期 経 常 増 減 額 【A】－【B】・・・①			1,535,000		144,000	1,679,000
【C】 経 常 外 収 益						
	固定資産売却益 過年度損益修正益	0 0		0 0		
経 常 外 収 益 計			0		0	0
【D】 経 常 外 費 用						
	固定資産売却損 災害損失 過年度損益修正損	0 0 0		0 0 0		
経 常 外 費 用 計			0		0	0
当 期 経 常 外 増 減 額 【C】－【D】・・・②			0		0	0
経 理 区 分 損 益 額・・・③			15,000		-15,000	
税 引 前 当 期 正 味 財 産 増 減 額 ①+②+③・・・④			1,550,000		129,000	1,679,000
	法人税、住民税及び事業税・・・⑤ 前期繰越正味財産額・・・⑥					70,000 -18,456,952
次 期 繰 越 正 味 財 産 額 ④-⑤+⑥						-16,847,952